

「いつも」の価値が「もしも」を支える。

# Insight Report

July/2021



「フェーズフリー」SIG

INNOVATION NETWORK

FOR CO-CREATING THE FUTURE



## 「フェーズフリー」 SIG

**目的** 日常から非常時を意識して備えることは難しいという前提を踏まえ、日常時にも非常時にも利用でき、機能を発揮する「フェーズフリー」な製品やサービスを検討する。参加組織のコアコンピタンスや資産を活かしたアイデアの創出。

**日程** Day1：20年11月20日 Day2：20年12月18日 Day3：21年1月15日 Day4：21年2月5日 Day5：21年2月26日  
Day6：21年3月19日

**参加組織** アイ・ロボティクス、近鉄グループホールディングス、ゲイト、高知県、神戸市、大和ハウス工業、中部電力、東京海上ホールディングス、TOTO、トヨタ自動車、農研機構、ブリヂストン、松崎町、三菱UFJ銀行、ユカイ工学（50音順）

**監修** 一般社団法人フェーズフリー協会

**事務局** 三菱総合研究所（岡田、伊藤、加藤、石口）

# プログラム概要

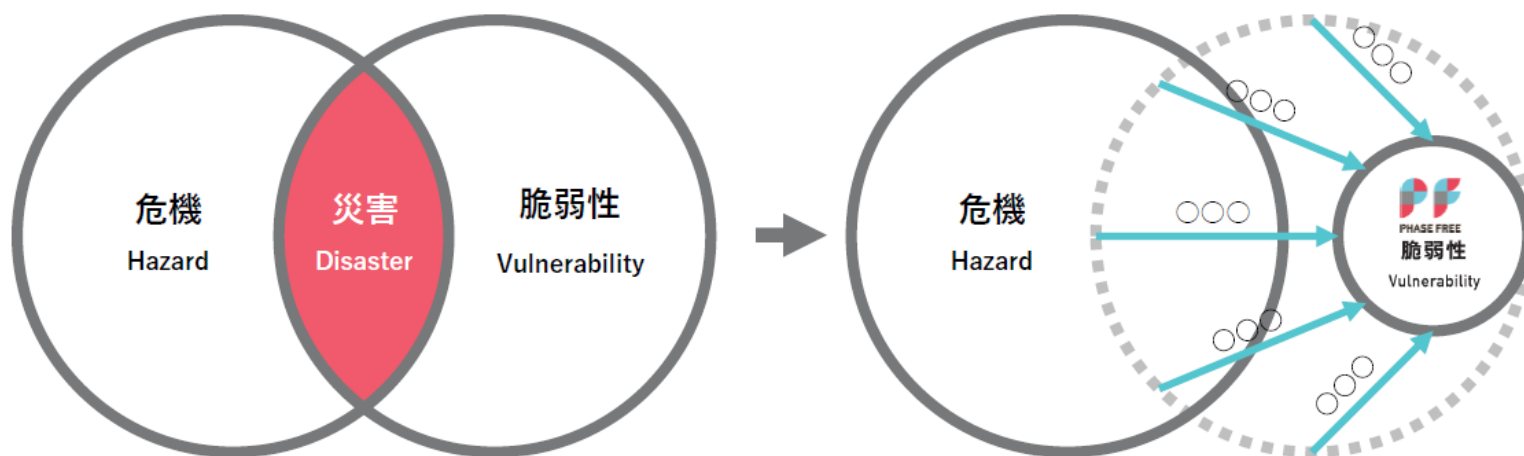
- Day1**
- フェーズフリーレクチャー（一般社団法人フェーズフリー協会 佐藤氏） **フェーズフリーの概念理解**
  - 個人ワーク「未来日記」について **「想像の壁」を自覚する**
  - Day2までの宿題 「未来日記」
- Day2**
- 「未来日記」の読み合わせ、全体シェア **インサイトの抽出**
  - 震災をケースにアイデア・ジェネレーション
  - Day3までの宿題 フェーズフリーアイデアを作成（危機は地震に限定しない）
- Day3**
- フェーズフリーアイデア発表（生活者視点+自社のコンピテンシー） **参加者からのインスピレーション獲得**
- Day4**
- フェーズフリーデザインレクチャー（一般社団法人フェーズフリー協会 佐藤氏）
  - グループワーク①（コンセプト/アイデアをブラッシュアップ） **誰かに話したくなるアイデアの発見**
  - Day5までの宿題 アイデアを誰かに話しフィードバックをもらう
- Day5**
- グループワーク②（コンセプト/アイデアをブラッシュアップ） **実装のリアリティをつかむ**
  - Day6までの宿題 アイデアを同僚に話しフィードバックをもらう
- Day6**
- フェーズフリーアイデア発表 **企画案骨子の完成、フェーズフリー思考の定着**
  - ラップアップ



# 「災害に備えられない私たち」

災害は、巨大地震やコロナ禍などの「ハザード（危機）」が「社会の弱点（脆弱性）」を突くことで引き起こされる。危機の発生そのものは制御不可能だとしても、脆弱性を下げて災害に備えることには人知が及ぶ。防災教育や防災用品の備蓄などは、生活者目線で実施可能な一例といえよう。しかし、防災意識を高く保つことは容易でない。危機を想像できても日常生活に忙殺されればやがて失念するし、防災用品の備蓄はコストにもなる。

そこで、生活に無理なく「防災機能」を組み込みたい。この防災・減災コンセプトを「フェーズフリー」と呼ぶ。日常と非日常（災害時）、二つの状態（フェーズ）の垣根を自然な形で取り払う（フリーにする）こと。ポイントは日常時の生活の質（QOL）を非常時と同等に評価する点にある。日常で利用する製品やサービスが緊急時にも機能する。ここには無駄がない。フェーズフリーは企業や自治体にとって差別化戦略の一助ともなるだろう。



Disasters occur when hazards meet vulnerability.  
「災害は、危機が脆弱性と出会うことで起こる」

「危機が脆弱性と出会わなければ、災害は起こらない」

PHASE FREE | フェーズフリー総合サイト

フェーズフリーデザイン事例集 | フェーズフリーな社会を実現するための価値が体现された、さまざまな事例を紹介します。(phasefree.net)

# 「想像の壁を超える」

もしも、月曜の朝9時に震度6強の地震に遭ったら・・・  
未来日記を書いて、「非常時のニーズ」を自分ごと化する。

災害発生(Public)

テーブルの下に隠れ、頭を守る。  
テーブル下に常備しているヘルメットを装着。

災害発生(Public)

窓側を見るとブラインドが  
かなりの勢いで揺れている。

被害評価(Public)

車両より降りて、隧道内を最寄り駅まで  
徒歩避難する旨、社内アナウンスが流れる。

被害評価(Public)

倒壊した棚や機械に足を挟まれた  
ケガ人を救護。救急セットを持出。

被害評価(Public)

早いところでは津波が到来。  
浸水やコンテナの流出など  
沿岸部で被害が発生、人的被害も

被害評価(Public)

古い木造住宅が建ち並ぶ地域では、  
火災が延焼し一帯が焼失。

災害発生(Private)

ブレーカーを落とし、ガスの  
元栓を閉める。

災害発生(Public)

机の下に隠れる。コロナ対策の段ボール  
パーティションが床に落ちることに気づく。

災害発生(Private)

余震を警戒しつつ、  
ハンカチで傷口を抑えて止血。

災害発生(Private)

在宅勤務中の娘と危険の少ない  
場所で毛布をかぶって備える。

被害評価(Public)

倒壊した建物に埋まっている人を助けようと  
するも、人手や道具が集まらず難航。

被害評価(Private)

携帯も電波が途絶え、情報源は何もない。

被害評価(Private)

充電手段がないことに気付く。

隣の自動販売機は見事に倒れていた。

被害評価(Private)

被害評価(Public)

緊急車両も道路での事故やがれきの  
散乱で思うように進まない。

出るうちに水をためる。

被害評価(Private)

家族に無事を伝えるため公衆電話に向かう。  
多分区の特別出張所にあるはず。到着するも、  
すごい行列になっている。

被害評価(Public)

地元の消防団から近隣の人的被害、  
建物被害状況やライフライン状況を  
簡単にヒアリング。

被害評価(Private)

家族全員を車中待機とし、非常用セットを  
家から車両に搬入。とりあえずの昼食を  
みな車内で食べる。





# 「想像の壁を超える」

もしも、月曜の朝9時に震度6強の地震に遭ったら・・・  
未来日記を書いて、「非常時のニーズ」を自分ごと化する。

災害対応(Public)

備蓄品セットの非常食を分け合い、自分の分を入手。

災害対応(Public)

近隣の方々と避難所生活の役割分担を試みるも、何が必要か把握している人も少なく、手探りで決めていく。

災害対応(Public)

近隣の生活道路復旧や避難所における活動支援などに参加。

災害対応(Public)

避難所に対し近所の自衛隊の駐屯地から給水車や仮設トイレなどの支援あり。

復興・復旧(Public)

道路を復旧する人、線路を復旧する人が数多くいる。

復興・復旧(Public)

仮設プレハブの工事が始まった。

災害対応(Public)

特に危険物を扱う部門、生体（動物、昆虫等）を扱う部門の施設の安全確認を急ぎ実施する指示が出ている。

災害対応(Private)

夜になり寒くなるが、停電の影響で電気が使えず暖房が使えないところも。

災害対応(Private)

通信環境が完全に復旧しないせいなのか、キャッシュレス決済が使えない。

災害対応(Private)

片付けながら、暖を取るための衣類や毛布類を集める。

復興・復旧(Private)

大震災経験のない娘の心のケアを大事に考える。

復興・復旧(Public)

応急仮設から出ていく人々の特集。新しい団地や空き家などに移動できる人はどんどん移動する。

災害対応(Private)

収納にしまってたキャンプ道具から調理器具、燃料、シュラフ等の生活用品に利用できそうなものをまとめた。

災害対応(Private)

照明はキャンプ用で持っていたLEDランタンがいくつかある。

災害対応(Private)

そろそろお風呂に入りたいが、ウェットシートで我慢。

災害対応(Private)

手を洗う水ももったいない。皿の上にラップを敷いて、握るのも置くのもラップを上手く使えば何とかかなりそうだ。

災害対応(Private)

公園にテントを立て、とりあえず一晩過ごせる準備を完了。

復興・復旧(Private)

震災時、安全を脅かすことともなった陶器類や生活の邪魔になった不要品を最低限まで断捨離。

復興・復旧(Public)

補修後の自宅に転居。ようやく以前の生活に戻るものの、定年後のセカンドキャリアで新たなローンを抱えることとなる。



## 災害の危機は変化する「タッチポイントはどこか？」

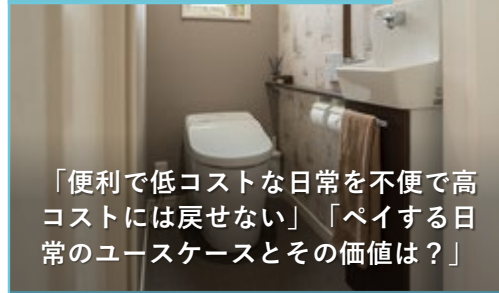
災害のフェーズ	危機や主な問題	タッチポイント
災害予知 早期警報	<ul style="list-style-type: none"> <li>余震や二次災害（倒壊/火災/津波）を予測できない</li> </ul>	スマホ、AIスピーカー、家庭用ロボット、ドローン
災害発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の命を守るのに精一杯で他人を助けられない</li> <li>パニックや恐怖</li> </ul>	自宅、路上、車内、オフィス、外出先の建物、電柱、テーブル、棚、カーテン、クッション
被害評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や同僚と連絡が取れず、安否が分からない</li> <li>情報を収集できない、選別ができない</li> </ul>	テレビ、ラジオ、SNS、安否確認システム、ホワイトボード、公衆電話、車載カメラ、ドローン
災害対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>救助や避難、移動などの行動を判断できない</li> <li>家族をケアできない（職務を優先してしまう）</li> </ul>	非常灯、消火器、防災リュック、防災マニュアル、車、バイク、自転車、ベビーカー、スリッパ
復旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源や灯り、水、食糧がない</li> <li>暖をとれず、体力を消耗する</li> <li>不衛生、感染症</li> <li>プライバシーがない、精神的に不安</li> <li>ペットを連れて避難できない</li> <li>現金を引き出せない</li> </ul>	避難所、学校、公園、仮設住宅、仮設トイレ、給水車、ポリタンク、ペットボトル、自販機、スーパー、コンビニ、キャンプ用品、食品用ラップ

# 参加者のアイデアから議論した内容

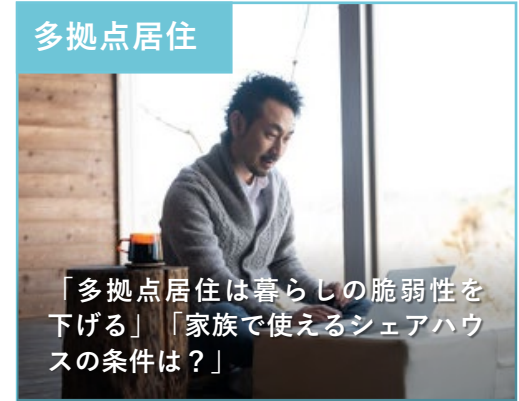
## ドローンの日常利用



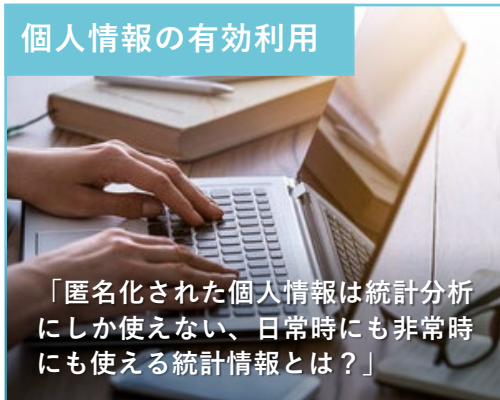
## 水回り・電源・住宅の オフグリッド



## 多拠点居住



## 個人情報の有効利用



## 食の流通



## 子どもの安心



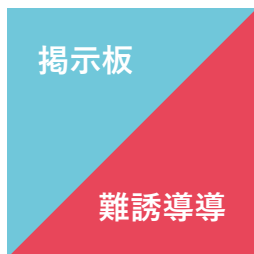
## ビジネスモデルの要素を検証

1. 利用者(顧客)
2. 製品・サービス
3. 提供価値
4. 販路
5. 課金先 (顧客)



# 自社のコンピテンシーや生活者視点で発想する

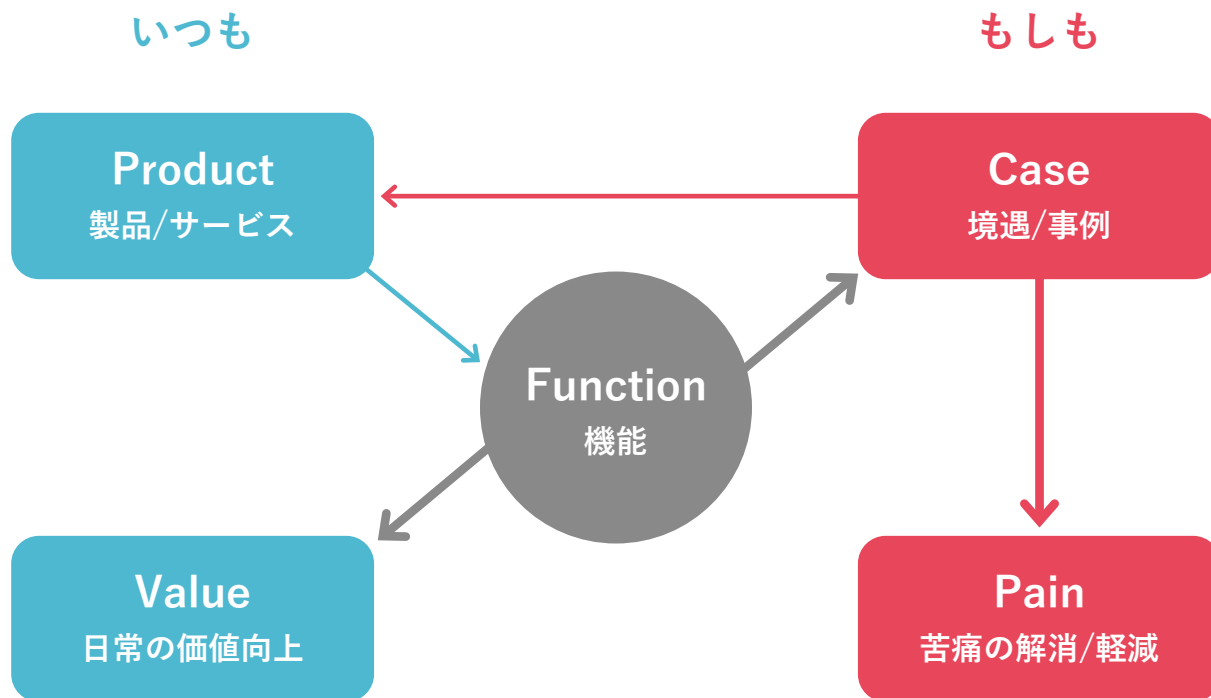
「いつも」の価値を高める ↔ 「もしも」の機能をデザインする



# How to Phase Free

防災・減災のコレクティブインパクト創出に向けて、フェーズフリーを製品/サービス開発時の標準思考として浸透させたい。デザイン思考の5つのマスをベンチマークに、「How to Phase Free」を簡単なフレームワークとして示す。

発想の起点は日常の製品(Product)でも、非常時の境遇(Case)でもよい。機能(Function)で日常時/非常時を架橋することで、日常の価値向上(Value)と非常時に直面する心身の苦痛(Pain)の解消・軽減を両立させる。



Stay / Research / Need new member / PoC